研 究 代 表 者	所属学系・職名　生命・環境学系・教授 氏　　名　黒沢　高秀
研 究 課 題	福島県内の旧制中等学校の博物に用いられた植物標本の整理および分析 Study on herbarium specimens deposited in junior high schools in Fukushima Prefecture before World War II.
成 果 の 概 要	【研究の背景，目的】 1886（明治 19）年の文部省令「尋常中学ノ学科及其程度」により，現在の理科にあたる科目として博物，植物，動物，物理，化学が定められた。それ以降，1947（昭和 22）年の学制改革により理科に組み込まれて消失するまでの間，旧制中等教育学校の学科目には博物があり，各学校には動物，植物，鉱物の標本が集められた。学制改革後の高等学校で博物の科目がなくなったことにより，これらの標本は学校教育に使われる機会がほとんどなくなった。多くの学校では当初理科室などに保管されている場合が多かったようであるが，改築や部屋の移動，担当教諭の転出や退職などにより，次第に廃棄され，あるいは散逸してきた。 旧制中等学校の博物に用いられた標本類は，戦前・戦中の教育史の資料として重要である。また，特に動物と植物に関しては，戦後の急激な環境変化により失われた当時の生物多様性を知る資料としても貴重なものである。愛媛県立今治南高等学校の愛媛県産の昭和初期の鳥類標本の中には，四国での観察例が希であるコクガンが含まれていた（稲葉 2017）。また，高田・白井（2016）は，武蔵高等学校中学校の鳥類剥製標本に基づき，1924 ~1926 年当時の東京都練馬区の鳥類 12 種類のリストをまとめている。しかし，このような例は希で，この 2 例以外に旧制中等教育学校の動植物標本を整理・分析し，論文として公表された例はほとんどない。今治南高等学校の標本は地元の博物館が旧制中等学校の標本を積極的に収集したものであり，武蔵高等学校中学校の標本は学校内に設けられた標本庫で保管されているが，これらは例外的である。前述のように，旧制中等学校の博物に用いられた標本は，教育史としての資料としての重要性や，過去の生物多様性の資料としての貴重性が認識されないまま，消失しているのが現状である。 本研究開始以前に，福島女子高等学校（現橘高等学校），梁川高等学校，保原高等学校の植物標本が共生システム理工学類生物多様性保全研究室に寄贈されていた。これらは，いずれもこれまで残っていたものであるが，良好でない保管状態で劣化するおそれや，廃棄されるおそれがあったとのことである。 本研究は，1,000 点ほどと見積もられるこれらの植物標本のラベル作成や標本台紙貼付などの学術標本化を行い，目録を作成し，由来（学校周辺で採集，遠方で採集，標本業者から購入など）を特定し，戦前・戦中の教育史の資料として利用可能な状態に整理することを目標とした。また，学校周辺で採集したものについては，現在の植物の分布状況と比較して，当時の植物の種多様性の解明も試みることとした。自然史博物館や博物館自然史系部門，自然保護センター等がある他の都道府県とは状況が異なり，福島県では戦前の生物多様性についての実証的資料は，平成 30 年度の本助成で整理し，福島大学貴重資料保管室植物標本室 FKSE に保管されている田口コレクション以外にほとんどない。

成 果 の 概 要	【方法】 福島女子高等学校（現橘高等学校），梁川高等学校，保原高等学校の植物標本の整理を行い，植物目録を作成し，学校周辺で採集したものについては，現在の植物の分布状況と比較して，当時の植物の種多様性の解明を試みた。上述の田口コレクションの解析でいわき市周辺，福島市渡利や信夫山，および猪苗代湖で明らかになったように，現在はほとんど見られなくなったり，絶滅したりした草原生植物・湿地生植物や，良好な水質に生育する水生植物を多く含み，そのような植物が多く生育していたことを示唆するかどうかを確認した。 【成果】 福島女子高等学校の標本は戦後の標本と，戦前の福島高等女学校の標本が含まれていた。戦前の標本には，教師か生徒により採集されたと思われる標本と標本業者から購入した標本が含まれていた。教師か生徒により採集されたと思われる標本は，1880 年代~1910 年代に福島市内等で採集された標本 250 枚ほどで，現在では見られなくなったヤナギスブタ，サンショウモ，トチカガミなどの水生植物や，マツバニンジンなどの草原生植物が含まれていた。標本業者から購入した標本は，島津製作所標本部，教育品製造合名会社，東京機械製造株式会社のもので，合計 100 枚ほどであった。島津製作所標本部のものは，東京他で 1900 年代に採集されたもので，千葉県で採集されたムジナモなど極めて貴重な植物を含んでいた。教育品製造合名会社の標本には採集した年月日が記されていないが，この標本販売業者が存在した 1880 年代~1910 年代に採集されたものと考えられる。東京機械製造株式会社の標本にも採集した年月日が記されていないが，この標本販売業者がその社名を用いていた 1880 年代~1910 年代に採集されたものと考えられる。戦後の標本は 1950 年代~1960 年代に福島市内などで，および 1970 年代に山形県内などで教師か生徒により採集されたと思われる標本が 100 枚ほど確認された。 保原高等学校の標本は，すべて戦前の旧制保原中学校時代の標本で，ラベル等に業者名が記されていないが標本業者から購入したと思われる標本であった。採集場所は東京近郊を中心に各地であった。 梁川高等学校の標本は，すべて戦後の標本で，1940 年代~1950 年代に梁川近辺で採集されたものがほとんどであった。様々な形状のラベルが付されていて中にはラベルがなく台紙に直接情報が書かれているものもあった。採集者も多様で，夏季休業中に採集されたものがほとんどであった。また，同定を赤鉛筆等で直すなどの書き込みが台紙になされているものが多かった。 本研究により，初めて県内（おそらく東北地方でも）の旧制中等学校の博物に用いられた標本類が整備され，それに基づいて調査，研究がおこなわれた。標本業者による植物標本の研究例は今のところ全くなく，本研究によって採集時期や採集場所が特定され，その活動の一端が初めて明らかとなった。 梁川高等学校の標本は，様々な形状のラベルが付されていて，採集者も多様で，夏季休業中に採集されたものがほとんどであったことから，夏休みの課題として提出された可能性が高いと考えられる。また，同定の訂正などのラベルや台紙への赤鉛筆での書き込みは，教師の確認時によるものと思われる。これらは，新制高等学校発足直後の理科教育の状況を知る上でも貴重な資料と考えられる。 本研究で整理された標本も附属図書館新館にある福島大学貴重資料保管室に収められる。福島大学が社会にアピールできるような貴重資料を増やすことにもつながる見込みである。